

遊工房アートスペース

年次報告

2022



遊工房アートスペースのアーティスト・イン・レジデンス事業への文化庁・アーティスト・イン・レジデンス活動支援の2012年から2021年の10年間の助成に感謝申し上げます。

目次

・はじめに — COVID-19 3年目のまとめ

・遊工房アートスペースについて — ヴィジョン、ヴァリュー、ミッション

1. 主要事業

1 - 1 AIRプログラム（受入、派遣・交換プログラム）

1 - 2 スタジオプログラム

1 - 3 展示及びオープンスタジオ

1 - 4 イベント - アーティストトーク、クリティック、セッションなど

2. 関連活動

2 - 1 AIR 交流プログラム

2 - 2 Y-AIR の実践

2 - 3 ネットワーク活動

2 - 4 地域活動、コミュニティーアート

2 - 5 調査研究

2 - 6 アーカイブス

・出版物、掲載記事など

・2022年活動一覧 - Overview

* 本文中の記号について

文 文化庁 アーティスト・イン・レジデンス活動支援事業

M マイクロレジデンス関連事業

Y Y-AIR（若手アーティスト育成プログラム）関連事業

E ECOC（欧州文化首都）関連事業

R YRP, Youkobo Returnee Residency Program

まえがき

COVID-19 3年目のまとめ

村田達彦・弘子

コロナの、パンデミックの総括にはまだ早いが……。

2020年初めに始まった COVID-19、その3月からレジデンス閉鎖、5月にスタッフ雇止め、イベント停止、と困難な状況が続いていった。

秋、地元での野外アート展「トロールの森」2020 開催決定に呼応して遊工房での在京アーティストの展覧会実施 12月から3か月間を、海外からの帰国後間もない日本人アーティストの滞在制作を試験的に受け入れた。

2021 年在京アーティストの活動に限り規模を縮小してスタジオ活動や展示を実施。

東京オリンピック 2020 の1年遅れの無謀とも思える開催実施で、国内は異常な状況となった。

秋には、前年同様、地元のアート活動グループと「トロールの森」継続開催 20 周年のイベントが行われ、伴に祝うことが出来たのは幸いであった。

並行して、空の遊工房スタジオスペースで、レジデンス滞在者、展示の在京アーティスト等の活動時の置き土産を総整理し、「AIR の真実」、「AIR の本質」を視覚化する試みとして、「アーティストの置き土産展」を開催し、関係の皆さんと共に展示を通し素晴らしい対話の場となった。

同時に遊工房レジデンス 30 年超のアーカイブの整理も始め、保管している作品、カタログ、活動記録などを通して、「なぜ AIR を始めたか?」、「AIR とは?」、「アーティストとは?」さらに「若い次世代に期待する」を主旨とした絵巻「遊工房マンダラ」として集大成することをスタートした。

パンデミック 3 年目の 2022 年に継続しての活動は本年報の通りである。

コロナによる 3 年目、この 2 年間の振り返りと共に、自らの齢の変化にも気付きはじめ、これまでのレジデンスをベースとした事業運営のこの先も考えてきた。パンデミックで振り返った遊工房レジデンス、35 年余りの年月で大きな事故が無かったということは何よりの幸運であった。この先は無理せず、アートスペースの運営に関して、施設としては在京アーティストの自律活動の場、プロジェクトスペースとしてのスタジオ提供に絞っていくことし、後継者育成が道半ばで中断してしまった事態を振り返り、2023 年 3 月末をもってレジデンス事業はいったん休止、そして 4 月以降はプロジェクトスペースとしてのスタジオ運用とすることにした。

コロナの明けるであろう 2023 年は、新たな時間とスペースを確保し、延び延びとなってしまった、念願の「Youkobo 曼荼羅」の完成に本格的に取り組みたい。これまでの 35 年間、遊工房に滞在した海外からのアーティスト・研究者・研修者、そして展示、イベントなど交流に携わった国内のアーティスト、スタッフの皆さんと共に、忘れることのできない足跡を残すことが出来たと思います。これらの多種多様な交流活動は私たちの誇りであると共に、忘れることはありません。皆さんありがとう。(2022 年大晦日)

遊工房アートスペースについて

アートは社会と一体の不可欠なものであり、人々の生活に潤いと気付きをもたらすものです。遊工房アートスペースは、独自のアート活動を通して、地域性と国際性、伝統文化と現代美術という一見異なる方向性を示す要素を繋ぎ、多様性が自然に受け入れられる場づくりや交流を実践しています。真侷に活動するアーティストの表現活動の支援と共に、地域社会の一員として、今後とも実践を通じたアート活動を継続していきます。

ヴィジョン（実現したい未来）

遊工房アートスペースは、多様な創作活動に応える実践の場となることでアーティストを支援、アートの社会的な役割とその重要性を提示することを目指しています。

バリュー(核となる価値観)

・開放性と交流:

アートは広く開かれるものであると同時に、異文化の人々のコミュニケーションと理解を育てるために必要なツールであると考えます。

・フレキシビリティ(柔軟性):

アートとアーティスト活動の本質に対して、私たちの活動はフレキシブルな取り組み方が不可欠であると認識します。

・自律性:

コミュニティや他の組織と強固なネットワークを保つことを大切にしながら、アーティストと遊工房自身の個性と多様性を維持します。

ミッション（果たすべき使命）

真摯に活動を続けるアーティストの創作・発表の活動を支援します。（AIR プログラム、ギャラリー・プログラム）国内外のアーティストの交流、さらに地域社会の人々との対話を通じた相互理解の醸成を図り、多様性が受け入れられる社会の形成を目指します。（アート・イベント、トーク）

他の AIR センターやアートスペースとのネットワークを築き、より多くの人々がアートを楽しめる環境づくりに努めます。（Res Artis、Microresidence Network、AIR Network Japan、AIR-J など）

人々がアートに接する様々な機会を生み出し、アートが社会にとって不可欠であるという認識を広まるよう努めます。

1 主要事業

1-1 AIR プログラム (受入、派遣・交換プログラム)

2021.03.01 - 2022.06.30 受入れは前年に継続して、COVID-19 によるパンデミックの為、閉鎖。派遣・交換プログラムは前年に継続して停止。

2022.07.01 - 2022.08.31 ダニエル・ラリア [バスク・スペイン]

Y

2022.09.01 - 2022.09.30 ロッテ ドディオン [ベルギー]

2022.07.01 - 2022.08.31

ダニエル・ラリア [バスク・スペイン]

2009 年 University of the Basque Country 美術科卒業、その後
2017 年 The New School for Design, New York 修士。欧米を中心としたレジデンス含む創作活動を通じた作品の発表を積極的に展開している。

「ERTIBIL BIZKAIA 2020」受賞アーティストとして 2021 年の来日計画 (注 1)であった。コロナによる渡航制限の緩和を機に、2022 年 7 月～8 月 2 か月間の日本での滞在制作活動の機会が実現した。遊工房アートスペースでの 2 か月間の滞在中、STOP-MOTION/TIME-LAPSE、音楽、ドローイング、彫刻、コラージュなど、初めての日本での創作活動を展開、特に、STOP-MOTION 撮影は、遊工房の近隣、渋谷などの都心、江東、築地など湾岸部など、昼夜にわたり熱心に活動した。いったいどれだけのコマが収録されたのだろうか？帰国後の集大成作業に期待したい。7 月には、同時期、女子美 AIR 滞在制作のナタリア・サアレス(Natalia Suarez)と共に、女子美での学生交流、ワークショップも積極的に参画、8 月には 1 週間の瀬戸内、京都など関西アートシーン散策等、充実した夏の日本滞在中であったと確信している。

「バスクの若手アーティストの日本滞在制作の活動記録(その 3)

<https://www.youkobo.co.jp/news/2022/12/3air-2022.html>

<https://daniellaria.com/>



2022.09.01 - 2022.09.30

ロッテ ドディオン [ベルギー]

ベルギー在のアーティスト(詩人)

「Passa Porta」(注 2)の推薦にて東京の遊工房での 1 か月間の研究滞在を実施。

彼女の当初の予定は、2020 年 8 月、東京オリンピック開催の時期であった。3 年後の 2022 年 9 月、ようやく実現となった。

遊工房でのプランは、添付の PDF をご覧ください。滞在中は遊工房で執筆活動を中心に調査研究、交流を実施。滞在の締めくくりとして、ベルギーでの新しい俳句の本の発売の記念も兼ねた、俳句をベースとしてワークショップ「STUDIO HAIKU」を開催し、交流を深める催しが開催された。

オリンピックのメダル授与に対応した俳句メダルの制作をしたプロジェクト「STUDIO HAIKU」についての話と共に、「私と一緒に俳句を書きましょう。俳句が何であるかで遊んでみましょう。私は私の熱意を持てきます。あなたが持ってくる必要があるのはあなたの好奇心だけです。」をモットに、遊び心のある俳句ワークショップ、話し合い、出会いの楽しき場は台風と共に過ぎ去って行った。

<https://www.lottedodion.be/>



YOUKOBART SPACE, TOKYO

注 1: 「ERTIBIL BIZKAIA」について: 【バスクの若手アーティストの日本滞在制作活動】

スペイン・バスク自治政府の若手アーティスト支援プログラム「ERTIBIL BIZKAIA」の受賞者の日本でのアーティスト・イン・レジデンス (AIR) 機会の協力要請を受けて、AIR と美大の協働する Y-AIR (AIR for young) 活動の一環として、遊工房アートスペース(東京)と女子美術大学の協働で 2018 年から始まった若手アーティスト支援活動。

コロナによるパンデミックの為に一時活動を停止。2022 年、渡航制限一部解除に対応して、2019 年に引き続き、首都圏のレジデンス、遊工房 AIR (杉並)、黄金町 AIR (横浜) 及びパラダイス AIR (松戸) に加え、新たに活動が始まった女子美 AIR (杉並) が加わり、2020 年と 2021 年の受賞者の計 6 名が来日する。各アーティストの自律活動をベースとした 2 か月間の滞在制作・交流プログラム。

<https://www.youkobo.co.jp/news/Bilbao2018.pdf>

https://www.youkobo.co.jp/news/Report_Basque2019.pdf

<https://www.youkobo.co.jp/news/2022/12/19/ActivityReport2022ja20221206.pdf>

注 2: パッサポルタについて: <https://www.passaporta.be/en>

国際文学館「パッサ ポルタ」は、ユニークな多言語の待ち合わせ場所です。国内外から読者と作家が集結。著者と翻訳者には、プラットフォームまたは職場が与えられます。2 年に 1 度開催されるパッサ ポルタ フェスティバルでは、100 人の作家や芸術家が集まり、ブリュッセルが文学の街であることを祝います。

1-2 スタジオプログラム

2022.03.01 - 2022.03.31	鈴木 希果、彭 愔、劉 心丹 [日本、香港、中国] (東京藝大グローバルアートプラクティス ユニット賞作家)	Y
2022.04.01 - 2022.07.31	郷治竜之介 (LTYE2016 体験アーティスト)	Y
2022.08.01 - 2022.08.31	臼井仁美 (LTYE2020 予定アーティスト)	Y
2022.09.01 - 2023.02.28	郷治竜之介 (LTYE2016 体験アーティスト)	Y
2022.11.17 - 2022.11.27	YAMANEM (長坂絵夢 & 山根朋子)	

1-3 展示及びオープンスタジオ

2022.01.08 - 2022.03.31	「遊工房マンダラ」 Youkobo Mandala (暫定) と公開対話会	
2022.03.23 - 2022.03.30	「Time ³ - Returning, Sampling, Memorizing」 鈴木 希果、彭 愷、劉 心丹 [日本、香港、中国] (芸大グローバルアートプラクティス ユニット賞作家)	Y
2022.05.25 - 2022.05.29	WCP Gallery, White Condite Project (ロンドン) にて開催 「Ai mi Tagi London/Tokyo 2022」 London/Tokyo Y-AIR program (LYE) 参加者他 18 名による (日本と英国の若手アーティスト・レジデンス交換プログラム)	Y
2022.07.02・03	LYE オープンスタジオ 東山 詩織／郷治 竜之介 東山詩織、郷治竜之介	Y
2022.08.21・22 & 27・28	「庭の重なり」— 渡英報告を兼ねて— 臼井仁美	Y
2022.08.27	「Dystopia」- バスクの若手アーティストの日本滞在制作成果報告 ダニエル・ラリア	Y
2022.09.23	「ロッセさんの俳句ワークショップ」 ロッセ・ドディオ	
2022.11.18 - 11.23	「Forest」 YAMANEM, 長坂絵夢 & 山根朋子	

2022. 01. 08 - 2022. 03. 31

「遊工房マンダラ」

Youkobo Mandala (暫定) と公開対話会

2021年11月～12月開催の「アーティストの置き土産 Vol.1 & 2」(遊工房に滞在したアーティスト達のプレゼント作品の展示)と、この1988年から30数年間360人余りの滞在制作をした、アーティスト達が、アートを通して残してくれたもの、人との繋がり、生き方、考え方、気付き等々を思い紡いでまとめた1枚の表「遊工房マンダラ(暫定版)」の公開を継続した。来訪者との対話会を適時実施し、在京、滞在アーティスト相互のアートを通じた交流や繋がりを考え、レジデンス・プログラムの神髄を究める試みとなった。

ビデオ記録:「アーティストの置き土産」(遊工房マンダラを語る)

<https://vimeo.com/696402705>



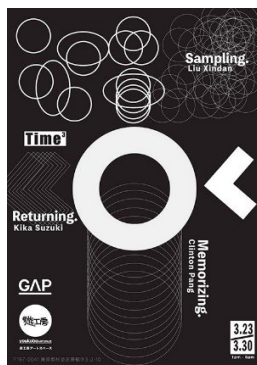
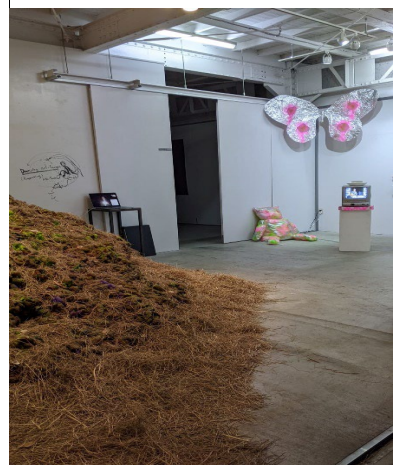
2022. 03. 23 - 2022. 03. 30

鈴木 希果[日本]、彭 惇[香港]、劉 心丹 [中国]

「Time³-Returning, Sampling, Memorizing」

芸大アートプラクティス(GAP)修士1年生の1ヶ月の遊工房スタジオでの制作、第6回目となる本年は、日本、香港、中国の3人が共に場を使い協働し、制作を行い、その成果発表を実施。:異なったバックグラウンドを持つ3人の視点から、Time(時間)という根源的なテーマについて解釈し、ドローイング、インスタレーション、映像から土まで、様々なメディアを扱った新作を展示した。

・関連イベント:クリティークセッション:李美那先生



2022.05.25 - 2022.05.29

日本と英国の若手アーティスト・レジデンス交換プログラム参加者他 18名(下記) [日本、英国]
Ai mi Tagi London/Tokyo 2022

日本とイギリスのアーティストが主導する展覧会。

LTYE(ロンドン/東京 Y-AIR 交換プログラム)は、2015年から始まった、東京藝術大学と遊工房アートスペース、及びロンドン藝術大学セントラルセントマーチンズとアソシエイトスタジオプログラム(ASP)が運営する、若手アーティストのための毎年3か月のスタジオ交換プログラムである。

「アイミタガイロンドン/東京2022」は、LTYEプログラムのこれまでの参加者であったアーティストや、プログラムのアドバイザーを務める教官によるグループ展と、そのプログラムの実践と評価に関するフォーラムを開催するもの。2019年7月東京で開催の、「アイミタガイロンドン/東京 Y-AIR 交換プログラム5周年記念」のロンドン版の位置づけで、コロナによるパンデミック後の2022年5月にロンドンで開催することになったもの。

https://www.youkobo.co.jp/news/2019_AimiTagai_Catalog_web.pdf

これまでの活動で培ってきたアーティスト同士の関係を活かし、この一連のプロジェクトは協力して継続されており、国際間の相互理解、協力、共存を深めることにより、持続可能な社会に欠かせない試みである。

会場:

White Conduit Projects, 1 White Conduit Street Islington London

<https://whiteconduitprojects.uk/>

参加アーティスト:

アナイス・コーマー、アリス・ジェイコブス、磯村暖、臼井仁美、エレン・ターンブル、川越健太、ギリース・アダムソン・センプレ、郷治竜之介、ジョンバティストウ・ラガデキ、ダリア・ブルム、地村洋平、トゥリー・リトヴァック、東山詩織、藤原信幸、堀内崇志、堀内悠希、リディア・デイヴィス、ロンリーパドゥルコレクティブ

活動記録:

「相身互-アイミタガイ ロンドン/東京 2022」

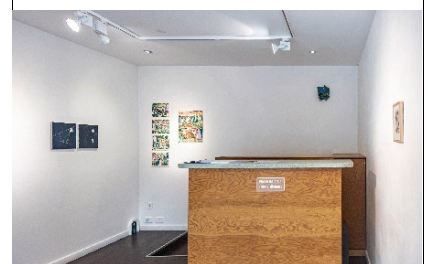
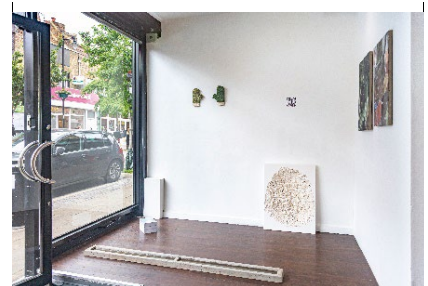
<https://www.youkobo.co.jp/news/2022/08/-2022.html>

フォーラム記録:

AimiTagai2022_Forum

<https://assets.adobe.com/public/a6c8d2e6-12ef-4caf-45d8-a9d11a43d54d>

<https://vimeo.com/744843708>



2022. 07. 02 ・ 07. 03

東山詩織、郷治竜之介

LTYE オープンスタジオ 東山 詩織／郷治 竜之介

5月末にロンドンでLTYEの仲間たちが開催した「Ai mi Tagai」展に続き、LTYE体験者の郷治竜之介と東山詩織のオープンスタジオ形式で共同展示。LTYEの6年間の活動で生まれた仲間たちの交流が形を変えながら継続している。



2022. 08. 21 ・ 22 & 27 ・ 28

臼井仁美

「庭の重なり」—渡英報告を兼ねて— オープンスタジオ

今年5月に開催したロンドンでの展覧会「Ai mi Tagai 2022 London/Tokyo」の報告と、帰国後の遊工房スタジオプログラム活動の成果発表を実施。

臼井仁美

遊工房アーティストスペース「庭の重なり」—渡英報告を兼ねて—
オープンスタジオプログラム

2022年 8月21日(09:00-15:00) 15時-18時
8月27日(09:00-13:00) 13時-18時
27日(13:00-18:00) 13時-18時
東京都杉並区喜多川3-2-10

2022/8/21sun - 22mon | 15:00-18:00
8/27sat - 28sun | 13:00-18:00
Event info: <https://www.yokobospace.com/en/program/2022-08-21-28>
Zempukuj 3-2-10, Saginami-ku, Tokyo, Japan

YOKOBO ART SPACE Studio Programme
OPEN STUDIO

Hitomi Usui



2022. 08. 27

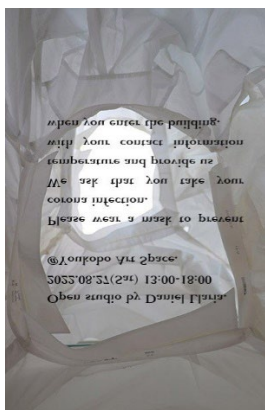
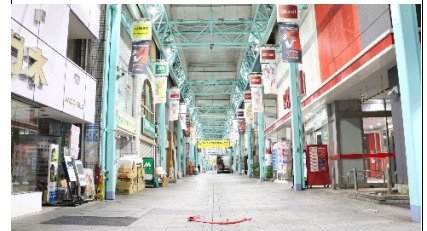
ダニエル・ラリア

「Dystopia」 - バスクの若手アーティストの日本滞在制作成果報告 オープンスタジオ

遊工房アートスペースでの 2 か月間の滞在中、STOP-MOTION/TIME-LAPSE、音楽、ドローイング、彫刻、カラー ジュなど、初めての日本での創作活動を展開、特に、STOP-MOTION 撮影は、遊工房の近隣、渋谷などの都心、江東、築地など湾岸部など、昼夜にわたり熱心に活動した。いったいどれだけのコマが収録されたのだろうか？

以前の作品ではブルーカラーや肉体労働が中心だったが、ここでは東京の街角で広く見られるホワイトカラーの従業員を取り上げた。このホワイトカラーの作業服は、首回りが黄ばんでいるほどくたびれている。このインスタレーションは、不安定さと威厳の間の境界線をたどり、粉々にされ、搾り取られた人々に対する一種の アンチモニュメントであり、歴史のより大きな物語とは無関係な、人々の経験の証人であり、壊れやすい彫刻として作られている。

7 月には、同時期、女子美 AIR 滞在制作のナタリア・サアレス(Natalia Suarez)と共に、女子美での学生交流、ワークショップも積極的に参画、8 月には 1 週間の瀬戸内、京都など関西アートシーン散策等、充実した夏の日本滞在であったと確信している。帰国後の集大成作業に期待したい。



Improvisational performance record in the open studio:

<https://drive.google.com/file/d/1fmEGNOEBISfsvRNhBfcn1Qfv-JU8QQR2/view>



2022. 09. 23

ロッセ・ドディオ

「ロッセさんの俳句ワークショップ」

ベルギーの詩人であるアーティストのロッセさんとの交流の場、遊び心のある俳句のワークショップ。

ロッセさんの活動するベルギー・アントワープのオリンピック開催100年後に当たる東京オリンピック 2020 を機会に東京大会の金メダルの数に合わせた俳句メダルを制作し始めた「STUDIO HAIKU」についてのお話と、参加者各自、または大切な人への贈り物として、それぞれの俳句メダルを作成した。



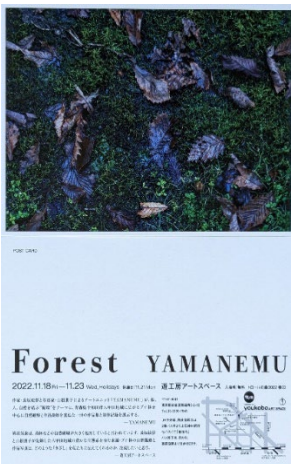
2022. 11. 18 - 11. 23

YAMANEM, 長坂絵夢 & 山根朋子

「Forest」

作家・長坂絵夢と写真家・山根朋子によるアートユニット

「YAMANEMU」が、鉄と人間、自然を結ぶ“循環”をテーマに、2020年秋と2021年冬の季節を跨いで、青森県十和田市の八甲田地域に広がるブナ林を中心に自然観察と作品撮影を重ねてきた一冊の作品集と制作記録を展示。



1-4 イベント、アーティストトーク、クリティック・セッション

・アーティスト・トーク

2022.03.23	「Time ³ - Returning, Sampling, Memorizing」	Y
	鈴木 希果、彭 愷、劉 心丹 [日本、香港、中国] (芸大グローバルアートプラクティス ユニット賞作家)	
2022.07.02	LTYE 体験を考える・LTYE オープンスタジオを機会に 東山詩織、郷治竜之介	Y
2022.07.25	「アーティストとしての生き方」 -スペイン・バスク自治政府の若手作家活動支援を背景に- ダニエル・ライラ、ナタリア・サレアス、女子美 AP 専攻学生と共に 記録: https://www.youtube.com/watch?v=PtzOyhrP4Gg	Y
2022.08.21	「庭の重なり」-渡英報告を兼ねて- 臼井仁美	Y
2022.08.27	「Dystopia」-滞在制作の成果報告と交流 ダニエル・ラリア 記録: https://drive.google.com/file/d/1fmEGN0EBISfsvRNhBfcn1Qfv-JU8QQR2/view	Y
2022.09.23	「ロッテさんの俳句ワークショップ」 ロッテ・ドディオ	
2022.11.23	「Forest」 長坂絵夢 & 山根朋子	

・シンポジウム、セッションなど

2022.01～03 「遊工房マンダラ」個別討論、海外はオンライン

Leo van der Kleij、Justyna Feicht、金沢寿美、Marta Gracia、城戸 久瑠実・ACC、
露口稜馬(内閣府官僚・福島をアートで再生！AIR 導入したい！？！)、
Kaisa Keratar、加藤康司(GAP)、Irmeli Kokko、

2022.03.16 「AIR 運営の実態」—女子美 AIR 準備委員会視察(日沼禎子教授幹事)
大学理事事務本部長片山拓治様他

Y

2022.03.25 マイクロレジデンスネットワーク/オンラインミーティング 2022

Y-AIR 構想「AIR x 美術大学」によるアーティストの国際的キャリア形成の場づくり

https://microresidence.net/wp-content/uploads/2022/12/2022_Y-AIR-meeting_0320_E.pdf

2022.05.25 Ai mi Tagai London/Tokyo 2022 -mutual empathy -オンライン・フォーラム
「LTYE プログラムを評価する・Y-AIR の意義と今後の展開」

Y

時間 | 10:00 - 12:00 (イギリス夏時間)・18:00 - 20:00 (日本時間)

https://microresidence.net/wp-content/uploads/2022/12/Ai-mi-Tagai-2022-Forum_en.pdf

記録:<https://shared-assets.adobe.com/link/a6c8d2e6-12ef-4caf-45d8-a9d11a43d54d>

Ai mi Tagai London/Tokyo 2022 -mutual empathy- Online Forum

「Evaluating the LTYE programme-Significance and future development of the Y-AIR」

Time| 10:00 - 12:00 (BST)・18:00 - 20:00 (JST)

Record: <https://shared-assets.adobe.com/link/a6c8d2e6-12ef-4caf-45d8-a9d11a43d54d>

2022.10.14 「トロールの森のあゆみとこれから」

トロールの森実行委員会 x 今川図書館 共同企画

講師:村田弘子・元実行委員長(当日は村田達彦代行)、黒野裕一郎・現実行委員長、

高島亮三・連続参加作家

2. 関連活動

2-1 AIR 交流プログラム

2-2 Y-AIR の実践

2-3 ネットワーク活動

2-4 地域活動、コミュニティーアート

2-5 調査・研究

2-6 アーカイブス

AIR 事業の実践を通し、AIR がアーティストの活動の一つの要素となり、また同時に社会において大切な役割を持つ存在となることを目指す。アーティストの滞在制作、発表の機会と場としての AIR 活動をベースとした関連活動は、4つの柱、「AIR 交流プログラム」、「Y-AIR の実践」、「ネットワーク活動」、及び「地域活動、コミュニティーアート」、そしてこれらの活動を横断した「調査・研究」とその「アーカイブ活動」で構成している。

2-1. AIR 交流プログラム

「国際機関からの受入」：国際機関との覚書に基づく継続的な受入事業と、「海外の AIR 活動機関との交換プログラム」：海外 AIR への派遣と、その発展形としての受入・派遣の交換プログラムで、国内アーティストの海外での活動の機会と場の創設も大切なミッションと考えている。

COVID-19 によるパンデミックの2年間の休止を経て、最終的には、2022年、相手先、各機関の合意を得て、活動の継続は一旦止めることとした。2020年滞在予定として決定の作家達の皆さんに心よりお詫び申し上げます。

2-1-1. 「国際機関からの受入」2022

①在日 Luxembourg 大使館・Luxembourg 文化省：

2011年開始、毎年1人・組の作家受入、2019年までに8名・組の受入実施。

2020年作家決定していたが、以降の継続活動保留。

2019年には、国内作家のルクセンブルグ派遣プログラムも開始したところであった。2019年1名派遣。

②Asia New Zealand Foundation, アジア・ニュージーランド財団(オークランド)：

2015年開始、2019年までに5名の受入実施。2020年作家決定していたが、以降の継続活動は保留。

③フィンランド作家協会(ヘルシンキ、UFW, The Union of Finnish Writers)：

2016年より開始、13名受入実施、2020年作家決定していたが、以降の活動保留とした。

④Passa Porta, ベルギー小説家協会(ブリッセル)：

2020年開始予定の計画分、2022年9月に実施。その後の継続計画は保留となった。

⑤その他、以下の機関との受入・交換は停止した。

ACC, Asia Culture Council, US-Japan(NYC, 東京)、the Art's U.S.-Japan Creative Artists Fellowship(NYC, 東京)

2-1-2. 「海外の AIR 活動機関との交換プログラム」2022、いずれもコロナで停止。

①KAIR, Kosice Artist in Residence (スロバキア・コシチュ)

2013年開始。2016年までの間、受入4名、派遣4名実施。

②Finnish Artists' Studio Foundation (FASF) 交換プログラム (ヘルシンキ)

2017年開始。2019年までの間、受入3名、派遣3名実施。

③studioName 交換プログラム (レスター・UK)

2019年、受入1名、派遣1名実施。

2-2 Y-AIR の実践

2013年AIRと美大の協働から生まれた「Y-AIR」概念の実践活動で、美大卒業間もない若手アーティストのAIR体験機会の創出と共に、AIR運営の実際の体験や、滞在者をサポートするインターンシップを通じた人材育成などの活動として進めている。

2-2-1. Y-AIR Network Forum 2022:

AIRと美大の協働を通し、多様なY-AIRの実践活動の共有、活動評価を通して国際間の交換プログラムの仕組み作りを目指す国際フォーラム、2021年ロンドン開催（ロンドン芸大CSM校）はコロナの為に中止、2022年開催計画としたが、その後断念となる。

注：Y-AIR Network Forum, Y-AIR実践活動を通じた美大とAIRの協働する国際フォーラム・交流活動

初回は、Y-AIR Network Forum 2020 東京とし、2020年2月に東京で開催（女子美術大学幹事校）で開催。

・東京開催：2020年2月7日（金）、8日（土）・女子美術大学

・タイトル：Y-AIR構想 — 「AIR × 美術大学」によるアーティストの国際的キャリアの形成

・参画機関：女子美術大学、東京藝術大学、ロンドン芸術大学CSM校、オーストラリア・RMIT（メルボルン）、西ボヘミア大学（チェコ）、アジア・パシフィック・カレッジ（マニラ）、ラップランド大学（フィンランド）、Waria Artbreak（フィンランド）、BM Lab（マニラ）、陸前高田AIR（岩手）、天空の芸術祭（長野）遊工房アートスペース（東京）、AIRネットワークジャパン

・記録冊子：http://www.youkobo.co.jp/news/Y-AIR_Forum_2020_Tokyo.pdf

2-2-2. Y-AIR 実践活動 2022:

① LTYE プログラム (London/Tokyo Y-AIR Exchange Program)

ロンドン芸術大学CSM校とACME StudioのASP (Associate Studio Program)、東京藝大・油画研究室と遊工房アートスペースによる協働プログラム。両校の新卒若手アーティストの両都市でのAIR交換活動プログラム、各年2名ずつが両都市での3か月間の創作活動を実施する。2015年開始、2019年までに両国20名の体験者を輩出。パンデミックの影響は、この交換プログラムの継続実施困難との相互理解の基、当面中止とすることになった。

(2022年1月)

・直近活動記録：https://www.youkobo.co.jp/news/LTYE_report_2019.pdf

② アイミタガイ | Ai mi Tagai Project 2022 London:

LTYEプログラム・5周年を機に結成された体験作家及び協力美大教員によるグループ展と活動評価のプロジェクト。2019年7月東京開催に続く2020年11月ロンドン開催計画は中止となり、展覧会イベントとは別に、オンラインでの相互創作活動を通じた交流、「Ai mi Tagai Web Project」実施（London側主導）、2021年9月まで継続。2021年、コロナで空いた遊工房のスペースを東京チーム主導でスタジオ活動を実施、2回に渡りオープンスタジオを開催。London側の積極参画もありコロナ下でのユニークなフィジカル展示と交流が実現。2022年のロンドンでの展覧会開催の実現性の検討が始まり、2022年5月、White Conduite Project Galleryにての展覧会の開催となる。

活動記録：http://www.youkobo.co.jp/exhibition_events/2022/05/ai-mi-tagai-2022.html

https://www.youkobo.co.jp/news/2022/08/10/2022_AimiTagai_Cat_v3_Man+Cover.pdf

活動評価 forum 記録：<https://assets.adobe.com/public/a6c8d2e6-12ef-4caf-45d8-a9d11a43d54d>

③ Y-AIR 海外派遣プログラム - 西ボヘミア大学 ArtCamp

「EU/Japan Fest 日本委員会（東京）」の紹介、協力で2013年から始まった、チェコ・Pilsen市にある西ボヘミア大学で毎年夏に開催されているアートの国際サマースクール「ArtCamp」に、2013年より国内美術系大学教官（研究室）の協力を得て、美大生およびアーティストを派遣するプログラム。異文化での短期滞在型（3週間）創作交流機会は、アートとの研鑽と共に、国際交流に挑戦するもの。2015年からはCamp講師の派遣も始まった。2019年までの実績：Camp参加計32名（学生26、アーティスト4、学芸系2）、講師派遣5名、研究者・インターン派遣3名

パンデミックの影響で開催中止が続き、2022年Camp再開となったが、派遣は見合わせ。

直近活動記録：https://www.youkobo.co.jp/news/ArtCamp_report_2019.pdf

④ Y-AIR Artist Exchange Program, Finland and Japan

フィンランドのマイクロレジデンス・Art BreakとLapland大学、日本側、遊工房と東京藝大によるY-AIR交換プログラム。「天空の芸術祭」（長野県東御市）とフィンランド北部の拠点をそれぞれの活動ベースとして2017年開始。相互に各1名の若手アーティストの派遣。3年間相互交換実施6名。2020年以降パンデミックの影響で中止となる。

直近活動記録：https://www.youkobo.co.jp/news/Finland_Y-AIR_2019.pdf

⑤ Young Basque Artists' Residency in Japan:

スペイン・バスク自治政府の若手アーティスト支援プログラム「ERTIBIL BIZKAIA」受賞者の日本のAIR体験機会の協力要請を受け、AIRと美大の協働するY-AIR活動の一環として、遊工房アーツペースと女子美術大学の協働で2018年から始まった若手アーティスト支援活動。国内のAIRの協力も得て受入、地域の美大との協働も背景に継続してる。2018年より開始、2年間で5名受入（遊工房、Studio Kura、黄金町AIR）、

2020年以降の決定者の6名の受入2022年に実施、遊工房・1名、女子美AIR・1名、黄金町AIR・2名、PARADISE AIR・2名。

⑥ 東京・メルボルンY-AIR 交換プログラム

メルボルンの総合大学RMITの文化芸術研修プログラム「The Japanese Contemporary Art Study Intensive (J-CASI)」の2019年9月の交流をきっかけに、両都市間のAIRと美大の相互交換の実現計画として、2020年からの遊工房への受入と、2021年以降の相互交換の覚書を交わした。2020年受入アーティスト決まったがコロナで中止。以降の計画見直し。

2-2-3. 遊工房インターンシップ

遊工房でのAIR運営の実習を通じた体験活動、国際インターンシップ制度（Global Internship Program, GIPは2006年より開始、また、次世代人材の育成のための、国内美大中心の学生インターンシップ制度は。2013年より開始した。遊工房のレジデンス・プログラムと展示・スタジオ・プログラム、さらに関連するネットワーク活動を実践を通して体験するインターン制度。半年から1年間の実習プログラム。2022年、コロナ過での中止状態のまま。

2-3. 「ネットワーク活動」

国内外のAIRプログラム間、AIR活動支援機関などとのネットワーク活動。

AIRが社会的な存在となることを目指し、国際AIRネットワーク、国内AIRネットワーク他、関連の活動ネットワークへ積極的に参加している。また、2012年に創設したマイクロレジデンス・ネットワークを通じた独自国際活動も展開している。

各 AIR プログラム間や AIR 活動支援機関との繋がりなど、様々なネットワーク活動を通し、AIR 利用者であるアーティストや研究者などの活動機会の一層の顕在化、活動機会創出、活動支援や運営の資金の捻出など直接の活動支援と共に、さまざまな AIR 活動の共同研究などを行なっている。2020 年以降、コロナ禍での活動はオンラインでの活動に限られてしまったが、コロナ後の活動再開、活動全体の見直しなど検討を重ねた。

COVID-19 によるパンデミックの 2 年間の休止を経て、2022 年からのレジデンス受入・交換についての再開は、相手先各機関との合意を得て、一部実施したケースを除き、その他の活動継続は一旦止めることとした。2020 年滞在予定として決定していた作家・研究者の皆さんには心よりお詫び申し上げる。

AIR 活動ネットワークとして、AIR 活動ネットワーク 2022 トピックス

①Res Artis 世界会合

2021 年 9 月バンコックでの開催（主催：Res Artis、共催（ホスト）：SAC Gallery, Bangkok）に続く 2022 年は、ウクライナ・キウでの開催予定であったが、ロシアによるウクライナ侵攻により中止となった

②マイクロレジデンス ネットワーク

2021 年「AIR とパンデミック研究会」の実施と、調査活動記録の発行。

マイクロレジデンス運営者のコロナ禍の状況を伺うと共に、レジデンス利用者であるアーティストのコロナ下での活動などアンケート方式で調査。その後、抜き取りに手の追加インタビューなど実施、調査結果を報告書としてまとめ公開した。<https://www.youkobo.co.jp/news/2021/03/air2020.html>

2-4. 「地域活動、コミュニティーアート」

アーティストの社会的な存在を、その活動を通して広く認知してもらうことは、地域にある遊工房の大事な役割でもあると考えている。身近に現代アートに触れる機会として、遊工房自身が発信するイベントばかりでなく、地元都立善福寺公園での野外アート展「トロールの森」、地域の公立小学校の土曜教室「アートキッズ」などとの共催と共に、地域で活動する各種アート団体との連携も積極的に進めている。地域連携としての、地元教育機関（小・中、高等学校、専門学校ほか）アート系 NPO、創作教室、ギャラリーなどとの連携は、地域にあるリソースの活用としても大事な側面となる。

2022 年トピックス

①トロールの森 2022

2022 年 11 月 3 日（木）～23 日（水）、都立善福寺公園

野外アート展「トロールの森」は 2021 年継続開催 20 周年を迎えた。2002 年、僅か 3 人の国内外若手アーティストとで始めたもの。すっかり地域に根を張り、野外でのインスタレーション、パフォーマンス、さらに、公園から最寄りの JR の駅を結ぶ広域でのアートの各種催しも加わる展開となっている。21 年目となった 2022 年、継続するコロナ禍での規制がある中、統一テーマ「Signs~きざし~」として開催された。遊工房アートスペースもサテライト会場として参画。

②トロールの森 春展 2022 「森に遊ぶ子ども達」

2022 年 4 月 28 日（木）～5 月 8 日（日）、都立善福寺公園・ももしの森

トロールの森・子供の春展の 18 年目開催、桃井第四小学校 4 年生 98 人の作品群の野外展開催。野外アート展「トロールの森」は当初 3 年間は、新緑の候 4 月～5 月にかけての 1 か月開催であった。2002 年～2004 年。2005 年春、NYC からの現代美術家・篠原有志男さんと地元の桃井第四小学校 4 年生 102 人の段ボールを用いての、思い思いの「春鳥」を制作、新緑の善福寺公園をパワフル&カラフルに彩った。この時以降、春のゴールデンウィークは子供の春展として毎年、善福寺公園「ももしの森」を会場に、トロールの森春展として、4 年生の授業の一部となり、以降継続開催となっている。

③ トロールの森 講演会 (トロールの森実行委員会 x 今川図書館 共同企画)

2022年10月16日(日)10:00-11:00、杉並区立今川図書館にて

テーマ「野外アート展 トロールの森のあゆみとこれから」

講師:遊工房アートスペース共同代表 村田弘子、村田達彦 美術家 高島亮三

アーティスト・トロールの森実行委員会代表 黒野裕一郎

尚、2022.10.01-2022.12.31の間、「野外アート展 トロールの森」写真展、杉並区立今川図書館にて展示開催された。

2-5. 「調査・研究」

AIRの一層の顕在化、AIRと美大の協働による諸活動と調査研究は、関係者との共有を意図して、その活動成果の報告会や、資料閲覧なども実施している。特に、「マイクロレジデンス」の存在、そのネットワーク活動との連携を重点にしている。AIR活動実践を通じた調査・研究活動として、自らの調査と共に、Face to Faceの対話をベースにAIR相互訪問をはじめ、寺子屋的な会合、公開のフォーラム、シンポジウム等の開催、参画などを積極的に展開。AIRの社会装置としての存在を社会にアピールする大事な活動である。研究・調査活動は報告としてまとめ、Webを通し公開し情報共有に務めている。予算次第で印刷発行も適時実施。

① 「アーティストの置き土産」と「遊工房マンダラ」

1988年から始まった(注)遊工房AIR(レジデンス)滞在制作アーティスト・研究者受入事業の総仕上げとして、作家からの寄贈含む置き土産である作品と資料の整理を2021年から本格的に開始。地域の野外アート展「トロールの森」開催に合わせての公開と。各作家との活動の実態、滞在中の創作活動と共に、同時期の様々な交流活動から読み取る事象などをまとめた活動総覧図「遊工房マンダラ」を基の対話会を実施した。この活動は2022年3月まで継続。その後、コロナによる海外からの入国制限の段階的解除の動きに合わせて、レジデンス運営の再開に伴い、活動は一時停止とした。

ビデオ記録：https://www.youtube.com/watch?v=8zCz1_5car8

(注)遊工房レジデンス活動資料の総整理作業により、レジデンス受入の始まりはこれまで1989年としていたが、1998年であることが判明した。

2-6 アーカイブス

AIR実践をベースに関連する諸活動、マイクロレジデンスの一層の顕在化、AIRと美大の協働による無限の可能性の調査研究は、共有すべく活動報告として発表、また、調査したAIR情報は、遊工房滞在作家の活動記録と共に、アーカイブとしての整理を心掛けている。国内外のAIRプログラムデータ、滞在アーティスト外の活動記録、調査研究の成果のアーカイブは順次閲覧できるようにしており、AIRへの参加の助言、AIR設立やネットワーキングの相談なども適時受付けている。AIRプログラムの調査・研究を通し、AIRそして「マイクロレジデンス」の顕在化する活動も進めている。アーティストと共に、社会でのその活動の意義が広く浸透することを願っている。

COVID-19 コロナによるパンデミックは、これまでの人々の生活に多くの課題を突き付けている。

身近な社会の矛盾、地球規模の課題などなど、これまでの惰性でない意識を持って行動することが求められている。公助の意識で事に当たることも、これまで以上に求められることになったと考える。アートが出来ること、アーティストと共にできること、これまでのレジデンス運営を通して考えられることを整理している。「遊工房マンダラ」を通して対話が進むことを期待して、パンデミック後の遊工房に公開アーカイブセンターを起こし、AIRの本当の話をしたい。

アーカイブス資料は、建物-2へ移動保管となった。

(2022年4月、レジデンス・プログラム2022の一部再開で建物-1全体を使用のため)

・出版物、掲載記事など

1. 出版物

2022.01.01 「アーティストの置き土産」ビデオ記録

2022.12.10 「バスクの若手アーティストの日本滞在制作の活動記録(その3) - AIRと美術大学の協働 2022」

2022.08.08 「アイミタガイ ロンドン/東京 2022」(Y-AIRの実践・LTYE 交換プログラム・その活動総括

2022.12.31 「遊工房アートスペース年次報告 2022」

2. AIR 展覧会カタログ、案内状など

会期	イベントタイトル・アーティスト	内容
2022.03.23 - 03.30	Time3、Returring. 鈴木希果 Sampling Xindan Liu Memorizing Clinton Pang	DM
2022.05. 25- 05.29	Ai mi Tagai London 展	DM

3. 掲載記事等

①美術手帖 ART NAVI、月刊ギャラリー、Tokyo Art Beat、各国大使館・文化センター・交流機関 HP にて
滞在及び展示情報掲載

②新聞

・「東京新聞」2022年10月13日掲載（「守れ！都会の二ホンミツバチ」）

② 情報誌

・「杉並アートサイト」2022年11月6日「Youkobo Now」

Youkobo Art Space 2022 Overview

				2022											
				JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC
Youkobo Art Space	Building-1	1F	Studio-3 / Gallery			<i>GAP #6</i>	Ryunosuke Goji #1			Hitomi Usui	Ryunosuke Goji #2	YAMA-NEMU			
		2F	Studio-2	Dialogue with Youkobo Mandala						Daniel Llaría <i>Basque Y-AIR</i>	Lotte Dodion <i>Pasa Porta</i>	Ryunisuke Goji #3			
			Residence-2	Youkobo Mandala and documents											
	Building-2	1F	Studio -1	Youkobo Mandala and documents											
			Residence-1	Closed											
		2F	Residence-3	Closed under the pandemic			Closed after the pandemic								
Outside Youkobo	White Condit Project, London							<i>Ai mi Tagai</i>							
	Zempukuji Park							<i>Trolls Kids</i>				<i>Trolls</i>			

AIR Program



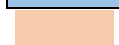
Studio Program



Exhibition Program



ARCHIVE



GAP: Selected young artist group of the Global Art Practice course, a master course in TUA since 2015.

Basque Y-AIR: Through partnership with Basque Regional Government and Youkobo has initiated activities to host winner artists of ERTIBIL Bizkaia since 2018.

Pasa Porta: The international house of literature Passa Porta, Brussels is a unique, multilingual meeting place where readers meet writers from Belgium and abroad.

YAMANEMU: Artist Unit, Emu Nagasaka and Tomoko Yamane.

Youkobo Mandala: A panorama depicting exchanges with Youkobo residents over the past 35 years, based on the Youkobo archives.

Ai mi Tagai : Ai mi Tagai Project London 2020 realized in May at the White Condit Project Galley, London by the LTYE young artists in both cities.

Trolls: 'Trolls in the Park', Open Art Exhibition at the Zempukuji Park, near Youkobo, Trolls in the Park 2022 as 21st and Trolls Kids as 17th anniversary in 2022.